

バスラ日誌（3月27日）

1 以前、[]が業務の交叉訓練のことを書かれたが、今回私もこのことの重要性について触れたいと思う。バスラ連絡班においては、[]が全般及びJ-3、私がJ-7・9・3(Media・OpsSpt・Info)、[]がJ-2及び[]がJ-1/4・3を主業務としてLO業務を遂行しているが、努めて自分以外の業務を掌握するよう努めている。3月上旬には[]が戦力回復に参加し、現在は[]が参加しているが、その間のそれぞれの業務は残っている者が実施することになる。業務責任を明確にするため、戦力回復参加者の業務を主に担当する者を決めてはいるが、基本的に残留者全員がそのことについて理解するように心がけている。具体的には、戦力回復参加者それぞれが自分の業務についての申し送り文書を作成し、主上番者に口頭及び文書で申し送るとともに、主上番者以外の者は、その文書を確認することにより実施している。これは戦力回復時だけでなく、通常の業務においてより重要な意味を持っている。まず、同じ者が常に本隊との連絡・調整にあたることはできないことから、問い合わせ等に対応するには、全員が全員のやっていることを(必ずしも完全に理解する必要はないが)知っておく必要がある。また、相互に何をやっているかを知ることによって、LO間のいわゆる「有機的な幕僚活動」が可能となる。我々の業務上、電話をとった者が「それは担当でないので分かりません。」とは言えず、最低限、概要については把握し、又は相手に情報を伝達し、細部は「担当より連絡させます」とするべきであると考えている(車両整備等の技術的な話は担当にお願いするが)。

連絡班は、本隊のための情報収集・連絡調整という重要な任務にあたるため、LOそれぞれがお互いの業務を知っておくことは、業務遂行上極めて重要という認識である。これからも、そのような態勢で業務を遂行していきたいと考えている。バスラLOの中には「担当でないので分かりません」という者はいないはずである。

- 2 3月25日に友軍クウェート分遣班及びクウェート大使館LOが、日本空軍の支援を受けて、バスラに糧秣を届けて下さいました。バスラ日誌の紙面を借りて感謝申し上げます。([] の慰問品も含まれておりました。)

(バスラLO一同)